

根株心腐病（レンガタケほか）

レンガタケ

針葉樹の倒木や切株によく子実体（キノコ）が発生する。トドマツ、エゾマツの根株心腐病菌の一つとされてきたが、最近、間伐作業で生じた立木の損傷を中心に、樹幹の腐朽を引き起こしていることが明らかになった。

子実体は半円形で赤褐色レンガ色をなし、縁は白い。直径2～6 cmで、管孔は白く迷路状をなす。

材の白色腐朽菌に分類されるが、腐朽材は外見上褐色を呈する場合が多い。



レンガタケ

その他の根株心腐病菌

ミヤマトンビマイ、カイメンタケ、ハナビラタケ、ツガノマンネンタケ、ニオイアミタケ、マツノネフチタケ、ニセカイメンタケ、キンイロアナタケ、レンゲタケ（ドドマツオオウズラタケ）



ミヤマトンビマイ



ハナビラタケ